

リニアのまちづくりについて

～リニア開業を見据えた「働く場所」「住む場所」の創出によるまちづくり～

平成27年3月7日
商工観光部 工業振興課

－ 中 津 川 市 －

1

リニアのまちづくり（背景）

●リニア中央新幹線の開業

- 2027（平成39）年度開業を目指した、リニア中央新幹線計画がスタート
 - ・ リニア岐阜県駅がJR 中央本線美乃坂本駅に近接して設置（県内唯一）
 - ・ 東京ーリニア岐阜県駅間 ……34分
 - 名古屋ーリニア岐阜県駅間 ……13分で結ばれる（※ノンストップの場合）
 - ・ 車両基地が中津川市に設置（東京ー名古屋区間で唯一工場が付帯）

●濃飛横断自動車道（中津川工区）の整備

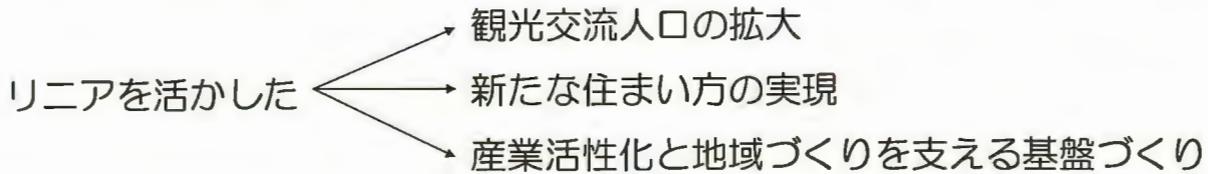
- 木曾川（県道苗木恵那線美恵橋）手前までを整備する計画（案）が示される
 - ・ 2027（平成39）年度のリニア開業までに整備
 - ・ リニア岐阜県駅へのアクセスが容易、中央自動車道及び国道19号に接続

2

岐阜県の動向 ～岐阜県リニア中央新幹線活用戦略（H26.3）～

●リニア基本戦略

▶ リニア開業後の目指す姿、リニアを活用した具体的な施策展開の方向性



●リニア活用戦略

▶ 平成25年度時点で、開業効果の波及が期待される3分野を重点的に展開

- ・ 観光振興・まちづくり …… 50km圏域の集中的な観光振興、観光軸の新たな形成など
- ・ 産業振興 …… 本社機能、行政中枢機能のバックアップ施設、工場誘致など
- ・ 基盤整備 …… 駅及び駅前広場整備、美乃坂本駅との連絡、アクセス道路整備など

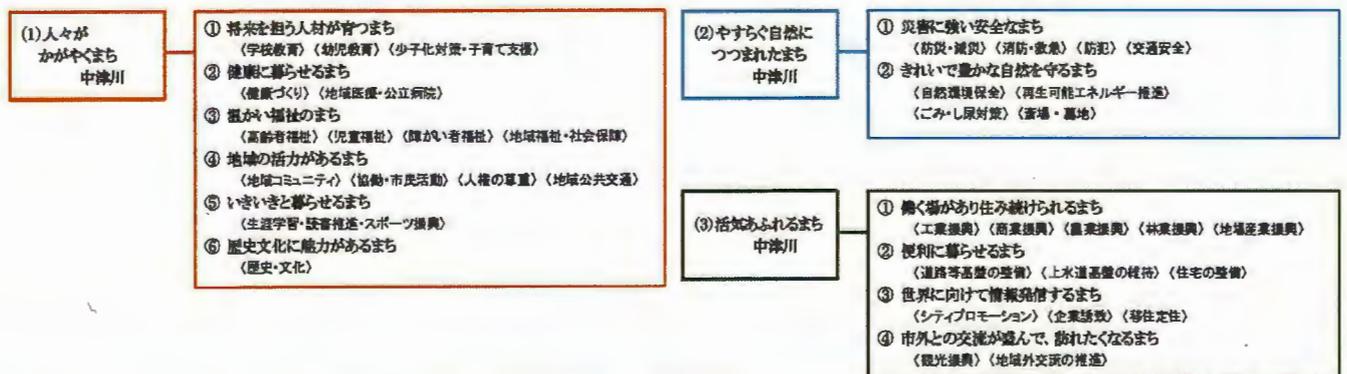
中津川市のビジョン①～中津川市総合計画～

●中津川市総合計画基本構想（H25.8）

▶ 将来都市像

「かがやく人々 やすらげる自然 活気あふれる 中津川」

▶ 基本となる理念と政策の柱



中津川市のビジョン② ～リニアのまちづくりビジョン～

●中津川市リニアのまちづくりビジョン（H25.8）

➢ まちづくりの理念

「リニアのホームタウン 水と緑の“なかつがわ”」

～日本の真ん中 訪ねてよし・住んでよしのまちづくり～



5

「働く場所」「住む場所」の創出によるまちづくり

●なぜ「働く場所」「住む場所」が必要なのか？

- 消滅可能性都市 …… 20歳～39歳の女性人口の予想減少率50%以上
 - ・ 全国で896自治体 岐阜県では17自治体
 - ・ 近隣では、恵那市（50.2%）、多治見市（50.1%）、瑞浪市（52.9%）

●中津川市の状況

- ・ 48.4%の減少が予測されている ⇒ 中津川市も例外ではない！！

●人口減少対策は

- 効果が出るまでには時間を要するが、早く取り組むほど効果がある
- 基本は「若者や女性が活躍できる社会」を創ること

～「ストップ少子化・地方元気戦略」（日本創生会議・人口減少問題検討分科会）～

★「働く場所」「住む場所」の創出が、「人」と「まち」を創る。

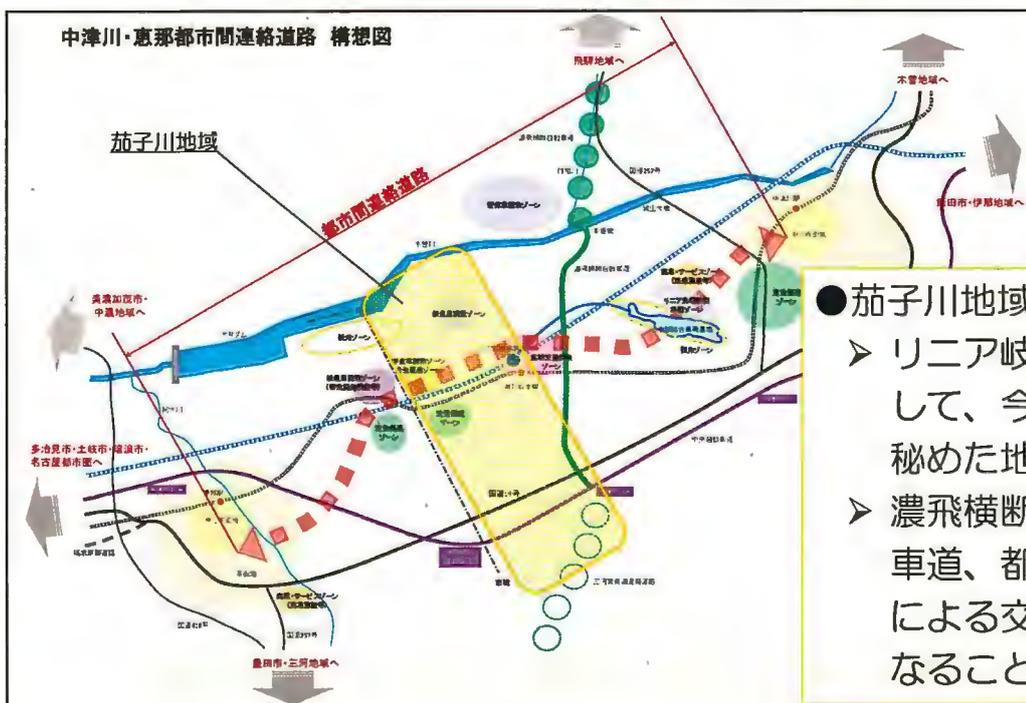
6

リニア整備計画等と茄子川地区との位置的関係



7

中津川・恵那都市間連絡道路の構想と 周辺土地の考えられる利用方法 (ゾーニング)



- 茄子川地域の立地
 - リニア岐阜県駅の立地地域として、今後の発展の可能性を秘めた地域
 - 濃飛横断自動車道と中央自動車道、都市間連絡道路(構想)による交通アクセスの要所となるが見込まれる地域

公益財団法人 茄子川地域振興財団との協定

●協定の経緯

- 茄子川地域は、岐阜県リニア中央新幹線活用戦略、中津川市リニアのまちづくりビジョンなどによる今後の発展の可能性を秘めた地域
- 茄子川地域振興財団は、茄子川地内に多くの一団の土地を所有

●協定の内容

- 「働く場所」「住む場所」の創出によるまちづくりを、相互が連携・協力して、地域の秩序ある発展を目指す ⇒ 平成26年12月2日 協定締結

●目指すまちづくり像

- 雇用の創出・定住化人口の増加を図るまちづくり
- 地域の共存・共栄を図る豊かなまちづくり
- 環境の保全と地域に調和したまちづくり

9

「働く場所」「住む場所」の検討を開始する区域

●茄子川地域振興財団が所有する一団の土地

- 茄子川中畑地区（約10ha）・・・ 恵那峡パークC.C～恵那峡周辺
- 茄子川中畑・西通・二ツ岩地区（約12ha）・・・ 二軒屋溜池北側
- 茄子川鯉ヶ平・堤下地区（約6ha）・・・ 東濃自動車学校北側

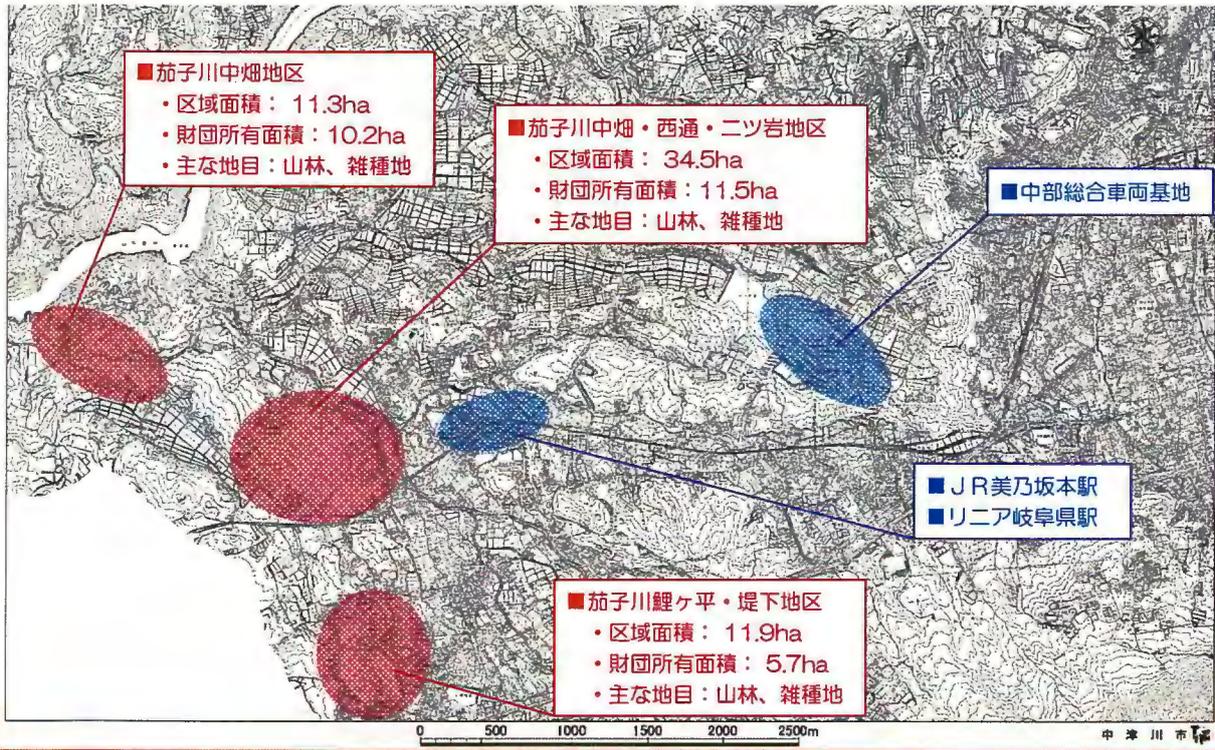
この地域の中で、最も適した地域から検討を開始したい。

●「働く場所」「住む場所」として検討を進める地域の条件

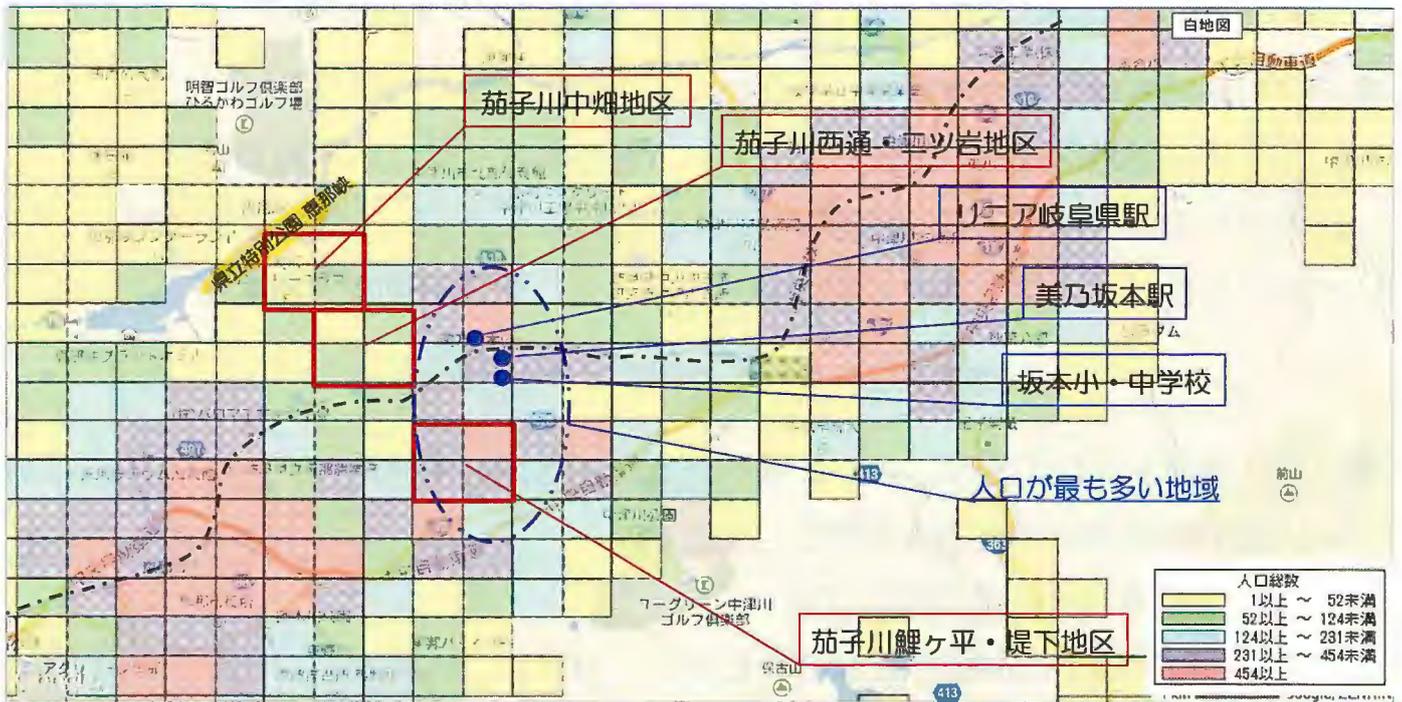
- 人流や物流の効果を最大限活かせる立地
- 市街化が見込まれる地域に隣接
- 10ha以上の平地面積が確保できる

10

●茄子川地域振興財団が所有する一団の土地を中心とした土地



●坂本地域の人口分布の状況



財団所有地並びに周辺土地の現状と評価

	中畑地区	中畑・西通・二ツ岩地区	鯉ヶ平・堤下地区
人口分布	・JR中央線軌道を境に、北側の人口分布は少ない	・JR中央線軌道を境に、北側の人口分布は少ない	・国道19号に近接し、付近の人口分布は高い
地理的条件	・市街地から離れた地域 ・主に山林 ・付近には、県立特別公園「恵那峡」や恵那峡パークカントリーなどの観光施設	・市街地に隣接 ・主に山林と農地 ・リニア中央新幹線岐阜県駅の西側で近接している	・市街地に囲まれた地域 ・主に山林（保安林が多い） ・国道19号に面し、周辺は市街化が図られている
その他	・恵那峡に面して、住宅地が整備され、宅地開発も進んでいる ・居住者も増加傾向にある	—	・学校等の公共施設に最も近く、市街化が見込まれる ・隣接に、財団による貸付住宅地がある
可能性	住宅地に適した地域	住宅以外の活用が可能な地域	住宅地に適した地域

◎中畑・西通・二ツ岩地区より、「働く場所」「住む場所」の検討を開始したい

13

坂本茄子川中畑・西通・二ツ岩地区のまちづくりに

●「働く場所」の確保を検討させていただきたい

▶ 立地的条件

- ・茄子川地内の市街化・宅地化（人口増加）が見込まれる区域に隣接
- ・新たに整備されるリニア岐阜県駅の北西に近接し、三大都市圏へ1時間以内で行き来できる高い交通利便性を活用した、物流・人流を最大限活かすことができる立地

▶ 社会的情勢

- ・東日本大震災以降、企業の災害リスク回避の意識が高まり、特に海岸部にある拠点的機能や製造工場の内陸部移転、首都機能のバックアップ施設などの内陸部移転の傾向
- ・「まち・ひと・しごと総合戦略」による、企業の地方拠点強化、企業等における地方採用・就労の拡大の政府方針による追い風

14

『市が提案する「働く場所」』①

●誘致を目指す仕事の種類

➤ 地方移転を検討する大企業の業務・本社機能

- ・「リスク回避に向けた内陸部への事業所移転」や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」により、地方移転を検討する大企業の業務・本社機能

➤ 人流・物流の利便性を活かした大規模な製造工場や商業施設

- ・リニア中央新幹線などの整備に伴う人流・物流基盤の利便性向上により、リニア岐阜県駅周辺への移転を希望する企業の工場や商業施設

➤ 行政中枢機能のバックアップ施設

- ・政府、首都機能など行政中枢機能のバックアップ施設

15

『市が提案する「働く場所」』②

●誘致を目指す企業

➤ 「地域の雇用の創出を図る企業」

- ・市の産業の中核となり、地域の雇用の創出により定住化が図られる企業

➤ 「地域との共存・共栄できる企業」

- ・地域の一員となり、地域の文化・慣習を尊重し、地域に根ざした活動により、地域と共存・共栄できる企業

➤ 「地域の環境に調和した企業」

- ・地域の環境と自然を守り、地域の環境に調和した企業

16

『市が提案する「働く場所」とは』③

●開発の考え方

- ・大規模な開発ではなく、企業ニーズを捉えたオンデマンド型

●土地の活用方法

▶ 「地域のシンボルとなる企業による一体的な活用」

- ・岐阜県の玄関口にふさわしく、リニア中央新幹線の車窓や中央自動車道からも目にすることができる大規模な企業

【活用イメージ】昭和初期に三菱電機(株)などが中津川に工場を建設され、地域のシンボル企業として、市とともに継続的に発展してきた背景と同様、地域の発展に寄与し、地域とともに共存・共栄できる企業の誘致を目指します。

- ▶ バランスを持った開発（工業用地 ⇄ 隣接住宅地）

『働く場所』がもたらす効果

●働く場所の創出によって

▶ 将来まで持続可能なまちを創ります

- ・「地域の働く場所の確保」は、「若者の地元定着」や「Uターン」により人口の減少に歯止めをかけ、中畑・西通・二ツ岩地域が「将来まで、持続・発展可能なまち」を創りだします。

▶ 経済波及効果をもたらします

- ・働く場所の創出により、特に地域商業・サービス業などへの経済波及効果が期待できます。

今後の取組みの流れ

